平成25年6月　発行

養成所ニュース

平成25年度　第1号　NO.23

発　行
公益財団法人 日本知的障害者福祉協会
社会福祉士養成所
〒105-0013東京都港区浜松町2-7-19
KDX浜松町ビル6F
TEL:03-3438-0984 FAX:03-3431-1803

第25期生263名が受講スタート!

「第25期・新受講生を迎えて」

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会　社会福祉士養成所

所　長
橘　　文也

第25期生の皆様、社会福祉士養成所へのご入学、おめでとうございます。

また、第25回社会福祉士国家試験を受験し、全体の２割にも満たない非常に低い合格率の難関を突破して合格された修了生の皆様、重ねて祝福申し上げます。

さて、平成24（2012）年10月１日より「障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）」が施行され、約半年が過ぎました。しかし、新聞等で報道されているように支援現場での虐待がいまだに続いていることは誠に遺憾であります。

法第４条第２項には、国及び地方公共団体の責務として、障害者虐待防止に関わる人材の確保と資質の向上のための研修等について規定されています。社会福祉士を会員とした専門職団体である日本社会福祉士会は、法施行にともなう障害者虐待防止の体制整備を目的とした国の事業を受託し、都道府県における「障害者虐待防止・権利擁護研修事業」を行うための指導的な役割を担う指導者養成研修に取り組んでいます。

このことは、社会福祉士が権利擁護の推進（実践）者として、指導的立場の役割を与えられ、その専門的知識や技術を現場において実践することが求められていると読み取ることができます。

これから益々、社会福祉士を中心とした専門職が必要とされ、その力量が試される時代となります。本養成所での学習を通して、ソーシャルワークの価値や倫理、専門的知識と技術を身につけ、社会福祉士として活躍されることを期待しています。

仕事や家事等と多忙な中での受講となります。互いに励まし合い、目標に向かって、邁進されることを心からお祈り申し上げます。

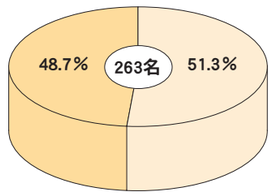
■第25期生の概要　（平成25年4月現在）

第25期生社会福祉士養成所の受講生は、263名です。
概要については下記の通りとなります。

●運営状況（過去３年間）

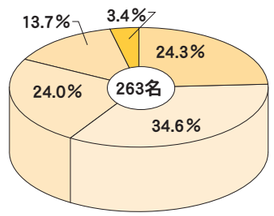
年度（期生）	応募者数	入学者数	修了者数
平成23年度（23期生）	308名	291名	278名
平成24年度（24期生）	280名	269名	
平成25年度（25期生）	275名	263名	

受講生男女比



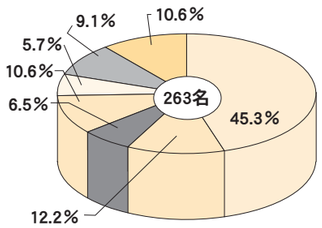
- 男　128名
- 女　135名

年齢別分布



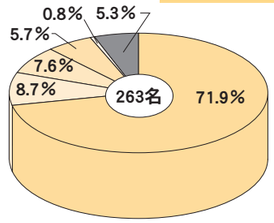
- 21～29歳　64名
- 30～39歳　91名
- 40～49歳　63名
- 50～59歳　36名
- 60歳以上　9名

地区別分布



- 北海道・東北　28名
- 関東　119名
- 東海　32名
- 北陸　17名
- 近畿　28名
- 中国・四国　15名
- 九州　24名

勤務先種別



- 知的障害分野　189名
- 高齢者分野　23名
- 行政・社協　20名
- その他福祉分野　15名
- 医療・教育関係　2名
- 一般企業・その他　14名

専任教員の独り言

社会福祉士養成所
専任教員　中野惠美子

25期生のみなさん、入学おめでとうございます。入学にあたってのみなさんの小論文には「資格をとって地域の福祉に貢献したい」、「社会福祉士として虐待のない施設をつくっていきたい」…など、高い志が書かれていて感動しながら拝読しました。これから共に学んでいくことができることを心から嬉しく思い、みなさんを歓迎したいと思います。

ところで「資格」とは何でしょう？　それをとれば、困難な問題がすべて解決し、バラ色の未来が待っている…というのは少し違う気がします。「資格」さえあれば自然に様々なことが身についていくというものでもありません。取得のための勉強がたいへんなことはもちろんですが、本当にたいへんなのは資格を得てからの、終わることのない道のりだろうと思います。

ソーシャルワーカーならば、常に人権感覚を磨き、アンテナをはって世界の動きをキャッチしていなければなりません。自分の行動をふりかえり、人間に対する深い愛と信頼をもち、常に社会問題についての知識を更新しながら、地域や職場など一番身近なところで自覚をもって活動をしていくのが、これからの社会福祉士としての人生になっていきます。それは平坦ではなく、「これでいい」ということのない、永遠に続く道のりです。逆に言えば、社会福祉士になるということはそれだけの覚悟が問われているということでもあると思います。

今年の国家試験合格率は、過去２番目の低さという厳しい結果でした。過去問題と全く違った形での出題に戸惑い、実力が発揮できなかった方も多かったようで残念でなりません。どうか落ち着いて冷静に、再チャレンジして頂きたいと思います。考えてみれば社会福祉士が対応することには、決まった形があるわけではなく、いつだれがどんなふうに飛び込んでくるかわからない、予想がつかないのが、私たちの現場です。資格制度自体が発展途上にあり、常に社会情勢とのせめぎ合いの中にあります。どんな事態にもあわてずたじろがず、利用者の人権を守り、社会福祉士としての倫理にそった活動をしていくためには、強い心もまた必要とされるということを痛感しています。熱い心と柔軟な頭で、これから共に学んでいきましょう。

通信教育Q&A

受講生の方からよくある問い合わせについてお答えします。

Q1 引越で住所が変わったのですが?

A
- ●住所・氏名・勤務先に変更が生じた場合には、すみやかに住所・氏名・勤務先変更届により届出てください。
- ●上記変更は本養成所ホームページの登録変更フォームより変更することも可能です。
- ●住所を変更した場合は、上記届出とあわせて、郵便局にて転送手続きを行ってください。

Q2 修了証明書を請求したいのですが?

A
- ●国家試験の受験等、本養成所修了後に修了証明書が必要な場合は、次の２点を用意し、本養成所庶務部あてに請求してください。
  ①修了証明書交付願（受講の手引・ホームページに様式添付）、
  ②返信用封筒（返信先を明記し、80円切手を貼付したもの）
- ●交付に際して、手数料は必要ありません。そのため、返信用封筒がない場合や交付願による請求でない場合は、発行できませんので、ご注意ください。

Q3 ワープロを使用する場合、原稿用紙はどうすればよいですか?

A
- ●本養成所指定の原稿用紙（様式：A4版・横書き・30字×40行）を使用します。
- ●本養成所ホームページ（http://www.aigo.or.jp/yoseijo/）から【入力フォームやテンプレート】をダウンロードできます。欄外に科目名、課題番号、学籍番号、氏名を記入して下さい。
- ●評価（採点）する側にとって、読みやすいことが大切です。

Q4 レポートを送付したいのですが?

A
- ●本養成所指定のレポート提出用封筒を使用し、レポート提出期間内に送付してください。
- ●１通の封筒に上限1kgまで、封入することが可能ですので、各学期提出分のレポート全てをまとめて提出してください。
- ●郵送中に配達事故が起こる可能性もありますので、レポートをコピーし控えをとる事や簡易書留等の交付記録郵便を利用しての送付をお勧めします。

●●●平成25年度スクーリング日程●●●

	第24期生スクーリングⅢ	第25期生スクーリングⅠ	第25期生スクーリングⅡ
東京会場	平成25年７月20日～21日	平成25年８月23日～25日	平成26年２月22日～23日
仙台会場	平成25年７月27日～28日	平成25年７月26日～28日	平成26年３月１日～２日
名古屋会場	平成25年８月３日～４日	平成25年８月２日～４日	平成26年２月15日～16日
大阪会場	平成25年８月10日～11日	平成25年８月９日～11日	平成26年２月８日～９日
福岡会場	平成25年８月31日～９月１日	平成25年８月30日～９月１日	平成26年３月８日～９日

国家試験に向けてのおすすめ図書

- 国民の福祉の動向（厚生統計協会）
- 厚生労働白書（厚生労働省）
- 週刊福祉新聞（福祉新聞社）
- 必携社会福祉士（筒井書房）
- 社会福祉士・受験ワークブック（中央法規）
- ワイド版社会福祉小六法〈資料付〉（ミネルヴァ書房）

知的障害者の福祉の向上を目指す月刊誌
知的障害福祉研究 support さぽーと
社会福祉士受験対策講座も連載中!!
お申し込みは
当協会『さぽーと』係まで

平成25年度 購読のご案内
- 毎月15日発行
- A4判 68ページ
- 1部 580円(税・送込)
- 年間購読料6,300円(税・送込)

★当協会加入施設職員の方は5,000円で年間購読できます(1部 470円)。

☎ 03-3438-0467　FAX 03-3431-1803
http://www.aigo.or.jp/

※養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、
ご連絡ください。　yoseijo@aigo.or.jp

第25回国家試験結果報告

第25回社会福祉士国家試験において本養成所より99名（うち24年度修了者57名）が合格しました。昨年度（第24回試験）は151名（うち23年度修了者73名）でした。

これまでの国家試験の結果

	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（%）
第１回試験 ～ 第10回試験	52,812	14,076	26.7
第11回試験	16,206	4,774	29.5
第12回試験	19,812	5,749	29.0
第13回試験	22,962	6,074	26.5
第14回試験	28,329	8,343	29.5
第15回試験	33,452	10,501	31.4
第16回試験	37,657	10,733	28.5
第17回試験	41,044	12,241	29.8
第18回試験	43,701	12,222	28.0
第19回試験	45,022	12,345	27.4
第20回試験	45,324	13,865	30.6
第21回試験	46,099	13,436	29.1
第22回試験	43,631	11,989	27.5
第23回試験	43,568	12,255	28.1
第24回試験	42,882	11,282	26.3
第25回試験	42,841	8,058	18.8
合　　計	605,342	167,943	27.7

国家試験の結果（養成所修了者）

	総数	新卒			既卒		
	合格者数（名）	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（%）	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（%）
第16回試験	199						
第17回試験	241						
第18回試験	235						
第19回試験	196						
第20回試験	253	262	146	55.7	408	107	26.2
第21回試験	212	244	124	50.8	434	88	20.3
第22回試験	224	262	133	50.8	423	91	21.5
第23回試験	202	206	101	49.0	426	101	23.7
第24回試験	151	179	73	40.8	440	78	17.7
第25回試験	99	223	57	25.6	427	42	9.8

●第25回社会福祉士国家試験合格基準●（文章一部省略）

次の２つの条件を満たした者を合格者とする。

(1)　ア　総得点150点に対し、得点72点以上の者（総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は１問１点である。）。

(2)　(1)のアを満たした者のうち、以下の18科目群すべてにおいて得点があった者。

①人体の構造と機能及び疾病　②心理学理論と心理的支援　③社会理論と社会システム　④現代社会と福祉　⑤地域福祉の理論と方法　⑥福祉行財政と福祉計画　⑦社会保障　⑧障害者に対する支援と障害者自立支援制度　⑨低所得者に対する支援と生活保護制度　⑩保健医療サービス　⑪権利擁護と成年後見制度　⑫社会調査の基礎　⑬相談援助の基盤と専門職　⑭相談援助の理論と方法　⑮福祉サービスの組織と経営　⑯高齢者に対する支援と介護保険制度　⑰児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度　⑱就労支援サービス、更生保護制度

◆第26回（平成25年度）社会福祉士国家試験（予定）◆

１．試験の日時及び試験科目

試験日	試験時間	試験科目	
平成 26年 1月 26日 （日曜日）	午前 10時00分 ～12時15分 （83問）	①人体の構造と機能及び疾病 ②心理学理論と心理的支援 ③社会理論と社会システム ④現代社会と福祉 ⑤地域福祉の理論と方法 ⑥福祉行財政と福祉計画	⑦社会保障 ⑧障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ⑨低所得者に対する支援と生活保護制度 ⑩保健医療サービス ⑪権利擁護と成年後見制度
	午後１時45分 ～３時30分 （67問）	⑫社会調査の基礎 ⑬相談援助の基盤と専門職 ⑭相談援助の理論と方法 ⑮福祉サービスの組織と経営	⑯高齢者に対する支援と介護保険制度 ⑰児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 ⑱就労支援サービス ⑲更生保護制度

２．受験手数料

7,540円

３．受験申込書の受付（提出）期間

平成25年９月５日（木曜日）から10月４日（金曜日）（消印有効）まで

※上記の最新情報、受験申込書類『受験の手引』の請求方法や『出題基準・合格基準』については、社会福祉振興・試験センターのホームページ（http://www.sssc.or.jp/）を参照してください。

◆国家試験合格者の声◆

佐々木　義郎さん（第23期生）

「人生の宝物」

私が福祉の世界に入ったのはちょうど三年前です。何も知らないまま人にすすめられて仕事を始めました。そんな自分を心配して、職場の人が「福祉のことをしっかりと勉強してはどうか」とすすめてくれ、これもまた流れで本講座を受講することにしました。はじまりは夢も志もなく、恥ずかしながら空っぽの状態でした。

それから、仕事をしながらレポートの勉強、実習、試験勉強をするという生活がはじまりました。予想以上に大変でしたが、毎日積み重ねていくことで、次第に空っぽだった自分に魂が入っていくようでした。講師の先生方はレポートでの指導やスクーリングを通じて、福祉という分野の素晴らしさ、面白さを説いてくれ、仕事や勉強への動機を与えてくれました。レポートの作成では、様々な分野の論点について歴史を学び、現状や課題をつかみ、自分なりの解決策や方向性を考えるということを繰り返して、遅ればせながら勉強の楽しさを感じることができました。試験勉強では糸賀一雄のことを知り、彼の思想や情熱に書物を通じてふれることで感動し、いつも彼のようになれたらという思いで仕事や勉強に取り組んでいました。

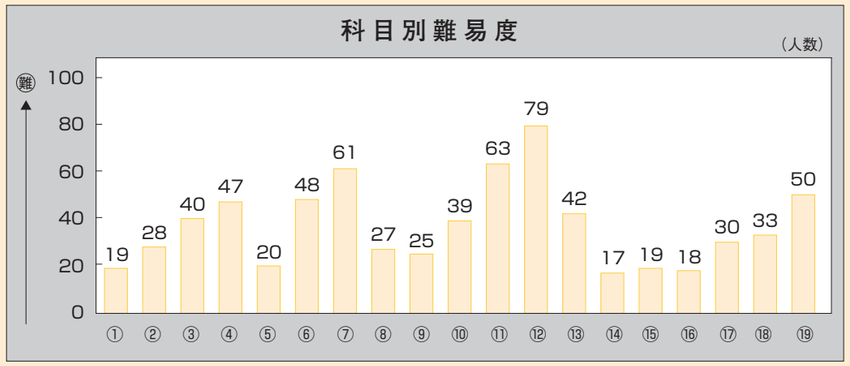
一か月間という実習では、色々とうまくいかず悩んでいた時に実習先の職員の方から「利用者さんに言うことをきかせるのではなく、あなた自身が利用者さんのよき鏡となってください」というアドバイスをいただきました。この言葉は、今では自分の仕事の基礎の一つとなっています。

また、スクーリングではよき仲間との出会いがありました。演習の時も、演習が終わった後もそれぞれの仕事のことや福祉のこれからについて語り合いました。その中で、勉強や仕事についてのアドバイスを直接もらったり、ヒントとなることを教えてもらったりしています。試験の前や試験当日も情報交換をしてお互い励ましあいました。おかげで、私は特に心細い思いをすることもなく試験にのぞむことができたのです。

資格取得のために効率化をつきつめて、色々なものを切り捨てていくという方法も一つの手かもしれません。しかし、そのために見逃し、見落としてしまうことも多いかもしれません。色々な自分のチャンネルを通じて福祉の面白さが分かると、受験勉強も決して無味乾燥なものではなくなると思います。今の自分や将来の自分にぜひとも必要なことだと、私自身はどの分野のことにも興味をもち、喜んで机に向かっていました。勉強と仕事とが直結しているので、力を入れれば入れるほどお互いに影響しあって、よりお互いを面白くしているという実感が生まれました。このことが、仕事と勉強に対する強力な動機づけになっていたと思います。

最終的には何とか試験に受かり、社会福祉士という資格を得ることができました。しかし、それまでの二年間で資格以上に大切なもの、いわば「人生の宝物」というべき数々のものを得ることができて、本当に自分は運が良かったと感じています。

第25回国家試験に関するアンケートについて



平成24年11月に修了した第23期生278名を調査対象とし、213名（①受験をした179名、②申込をしたが当日受験しなかった14名、③申込をしなかった20名）からの回答が得られました。

図は受験者の回答をもとに難易度数（難しいと答えた人数）を示しています。

横（項目）軸の囲み数字は、試験科目の囲み数字の科目名を示しています。

※厚生労働省への報告のため、現在もアンケートは回収していますので、未提出の方は早急に提出してください。

◇残念ながら合格できなかった方々からの反省とコメント◇（アンケートより抜粋）

・レポートを終えてから（10月から）学習を始めたので少し時間が足りなかった。少しずつコツコツ行うべき。幅広く学習をする必要があると感じました。実際、見たことも聞いたこともない言葉もたくさん出てきました。その他でとれなかったのは勉強不足としかいいようがないのですが…。　・すべてのレポート提出が終わり、ほっとして休養期間に入ってしまいました。（中略）出題範囲がとても広いことを目の当たりにして、計画をたてた受験勉強が必要と感じました。今回の反省をもとに来年も挑戦しようと思います。　・勉強時間が少なかったのが反省です。また、当日あわててしまい、ケアレスミスがあったことが悔やまれます（２つ選択する所を１つのみ選択してしまった等）。来年は勉強時間の確保と、試験であわてない為にも模試等の活用をしていきたいと思います。　・時事問題や教科書（中央法規）に載っていない問題が多くあったように感じました。教科書だけではなく他にも情報収集が必要だと感じました。

※その他のコメントについてはホームページに掲載しています。